

富士市中小企業景況調査結果

令和2年度 第4四半期【令和3年1月～3月】

令和3年4月
富士商工会議所調べ

◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、200事業所(回収率68.5%)を対象に、「令和3年1月～3月」の3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

DI(景気動向指数)とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…令和2年10月～12月 今期…令和3年1月～3月 来期…令和3年4月～6月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で表し、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

◇ 今期調査の概況 ◇

前期・今期と比べたDI値の動き		↗改善	→横ばい	↘悪化	
主要DI	前回調査			来期予測	
業況	▲44.9	→	▲48.2 (▲51.5)	↗	▲21.5
売上	▲42.8	→	▲43.7 (▲43.7)	↗	▲4.7
採算	▲42.5	↗	▲36.1 (▲40.0)	↗	▲15.4

今期調査では、全産業合計の業況DIが-3.3ポイント、売上DIが-0.9ポイントと横ばいで、採算DIは+6.4ポイントの改善となった。来期の予測については業況・売上・採算DIとも高い水準での数値を示す結果となった。業種別の来期業況・採算DIは、製造業、卸売業、小売業、サービス業が改善を予測し、建設業のみが悪化を予測。売上高DIについては、全ての業種が好転の見込みを示した。

各業界とも二極化傾向にあり、厳しい状況が続く業種に関しては「新たな取り組みが求められている」、「先行きが不透明である」というコメントが多く寄せられた。また、緊急事態宣言の発令及び延長による販売需要の低下や、来店客、売上の減少が目立ち、一方、今後の動向については、ワクチン接種による効果を期待する声が多かった。

経営上の問題点では、製造業・卸売業・小売業・サービス業が「売上減に伴う利益減」、建設業は「人材不足」及び「売上減に伴う利益減」が同率1位となった。

◇ 全産業の動き ◇

〔業況のDI〕 今期、製造業は改善。卸売業・サービス業は横ばい。建設業は悪化。
来期は、製造業・卸売業・小売業・サービス業は改善を予想。建設業は悪化と予測。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲54.5	↗	▲48.5 (▲47.2)	↗	▲6.0
建設業	▲19.4	↘	▲31.0 (▲40.0)	↘	▲48.3
卸売業	▲54.2	→	▲52.2 (▲54.6)	↗	9.1
小売業	▲43.5	↘	▲54.5 (▲68.4)	↗	▲42.9
サービス業	▲55.6	→	▲57.7 (▲55.6)	↗	▲20.0
全産業	▲44.9	→	▲48.2 (▲51.5)	↗	▲21.5

〔売上高のDI〕 今期、卸売業・サービス業は増加。製造業・小売業は横ばい。建設業は減少。
来期は、全ての業種において増加を予測。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲55.8	→	▲53.0 (▲38.9)	↗	12.5
建設業	▲16.1	↘	▲46.7 (▲43.3)	↗	▲30.0
卸売業	▲50.0	↗	▲37.5 (▲60.9)	↗	18.2
小売業	▲45.4	→	▲50.0 (▲36.8)	↗	▲22.8
サービス業	▲48.2	↗	▲28.0 (▲40.8)	↗	0.0
全産業	▲42.8	→	▲43.7 (▲43.7)	↗	▲4.7

〔採算のDI〕 今期、製造業・建設業・サービス業は好転。卸売業は横ばい。小売業は悪化。
来期は、製造業・卸売業・小売業・サービス業は好転を予想。建設業は悪化と予測。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲52.9	↗	▲40.0 (▲38.9)	↗	▲3.0
建設業	▲22.6	↗	▲13.3 (▲36.6)	↘	▲30.0
卸売業	▲33.4	→	▲33.3 (▲39.1)	↗	0.0
小売業	▲47.8	↘	▲59.1 (▲47.4)	↗	▲28.5
サービス業	▲55.6	↗	▲40.0 (▲40.8)	↗	▲16.7
全産業	▲42.5	↗	▲36.1 (▲40.0)	↗	▲15.4

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

【製造業】 景気ムード…【厳しい状況】

『製紙』…「ペーパーレス化に拍車が掛り生產品目によって差が生じ、一層の需要減が予想される。緊急事態宣言下で動向が定まらず、次年度への対応が難しい。」「しばらく続いたインバウンド関連需要は当分の間期待できず、売上減になると思う。」とのコメント。

『紙加工』…「2020 年後半と比較すれば若干持ち直しているが、もともと減少幅が大きいので改善されていない。自粛が緩和されても需要の戻りは鈍いと予想。」「大手からの受注は、前年同期比 6 割程度の水準で推移している。コロナ禍が常態する可能性も高く、引き続き見通しはつかない。」「外出制限により活動が自粛され、飲食店等の業務用ペーパーの使用が鈍く生産調整せざるを得ない状況。PPC 紙(コピー用紙)もリモートワークが定着し、需要が低下している。今後、経済や人の動きが活発になれば多少改善すると思う。原材料価格については上昇が見られる。」との回答。

『金属加工』…「自動車部品については増加傾向にあるが、今後の見通しについては、半導体の不足から減産が予想される。工作機械部品については低調で推移している。」「自動車・工作機械は好転の兆しはないが、成形機は好転してきており、来期以降も持続しそうである。」との意見。

『機械器具』…「1 都 3 県の緊急事態宣言延長や、オリンピック・パラリンピックの動向により、首都圏に於ける官公庁工事の発注が減少。来年度、秋以降の工事増加に期待する。」「製茶機械の動向は、4 月末から 5 月中旬の一番茶の結果による。8 月の JA 合併による変化に期待したい。」「輸出関係は不振が続き、今後の見通しは全くわからない。」とのこと。

『金型部品』…「明るい兆しはない。業界内において各企業の格差が出始めている。5 月まである程度の受注を確保しているが、その先は不透明。業界全体でも厳しい状況は続いている。」との意見。

『自動車部品』…「通販需要の拡大等により、輸送用トラックについては好調であるが、バス製造に関しては大幅に減少している。今までの受注残により持ちこたえて来たが、今後コロナが終息しない限り通販需要も低下すると思われる、開始されたワクチン接種の効果に期待する。」「メーカー全体の生産減が目立つ状況。」とのコメント。

『衣料・繊維加工』…「得意先が数年前に行った設備投資により、コロナの影響を受け資金繰りが悪化し、今までに無いほどの在庫調整を実施。その影響で売上が減少している。今後も在庫調整の影響を受けられると思われるが、復活に期待したい。」「コロナ禍による需要減が続いているが、一部海外向け(中国)産業資材に動きが見られる様になって来た。5 月・6 月位までは、産業資材の需要が増加していくと思われる。」との意見。

『印刷資材・印刷関連』…「印刷関連は低調状態が続いている。家庭紙・産業機器関連は、夏頃より上昇傾向となると予測される。」とのこと。

『食品』…「マスク不足は解消したが、医療用手袋が不足していることから、製造作業で使用する手袋が不足し価格も高騰している。」「コロナの影響は継続し、特にコンビニ・土産関係は不調。一方、スーパー・ドラッグストア・ディスカウントショップ・ネットショップでの需要は好調で、低価格商品の需要は高い。この傾向は当面続くと推測している。」「サービスエリアや土産品売り場などに卸しているが、首都圏などの緊急事態宣言、外出自粛により販売数が落ち込んでいる。新型コロナウイルス感染の収束の見通しが立たない状況が続くと、売上がさらに減少していくと思われる。借入金返済猶予期間の終了や元金返済開始に伴い厳しさが増し、コロナの影響がこれから本格化すると思われる。購買意欲も減少して来ていると思う。」とのコメント。

『飲料』…「オリンピック・パラリンピックの需要判断がつかいない状況もあって、全国にお茶の在庫がダブっている。中長期的には需要縮小に向かっているが、品質の良いものは一定の需要があるようだ。イベントの中止で売上等が厳しい。」との意見。

『その他』…「茶生産農家、工場が集約化の傾向にある。緑茶がコロナに効果があれば少し良い風が吹きそう。」「小売り重視の経営を目指す事業所が増加している。」「地元商店街もコロナ感染者の減少と共に回復してくれることを願う。消費者の今後の購買意欲次第だと思われる。」との声。

	好転%	不変%	悪化%	今期 D I	来期予測
業況	8.6	34.3	57.1	▲48.5	上昇
売上高	17.6	11.8	70.6	▲53.0	上昇
採算	17.1	25.7	57.1	▲40.0	上昇

【建設業】 景気ムード…【厳しい状況】

『総合建設』…「コロナの影響から、客先の中期計画等の見直しや工事の中止・延期もあり、設備投資関係が進んでいない。」「公共土木工事に関しては、補正予算を含み来年度予算も順調の様に見受けられる。一方、一般建築工事は少なく過当競争になっている状況が続き、課題である技術者不足は変わらない。」「公共工事は、国交省の発注工事を中心に当面の受注確保は見通せる。しかし、民間工事は、企業の設備投資への意欲が停滞し、発注数が伸び悩んでいる。民間受注工事の競争激化が顕著になる模様。」「令和2年度の建設総投資額は、前年度比微減、令和3年度は、前年度比減と予想されている。」「3月決算企業における来期の設備計画内容により、仕事量は左右されるので現状では不透明。」「民間企業の設備投資意欲の減退から、工事量の減少や少額化の傾向が表れている。公共工事については、新年度の予測もたえず不透明である。少ない民間工事に対して、多くの業者が入札参加し競争激化は避けられず、結果、収益率は悪くなるであろう。」との回答。

『一般住宅』…「業界の動向は二極化しているように思うが、今後の見通しについてはコロナの影響によって左右される。」「富士市の政策が効果的で、移住者が増加傾向。また、計画道路や新々富士川橋の進捗により明るくなる気がする。」との意見。

『建設関連』…「緊急事態宣言により関東方面への営業ができなくなり、仕事の確保が困難。競合他社が単価を下げて仕事を取る傾向が強くなり、受注単価が下がる一方である。」「建設業界はコロナの影響で、これから官公庁の仕事も少なくなると予想され先不安は残る。富士市に関しては、体育館の工事が今年の見玉になると思う。」「生コン製造・販売は長年に渡り供給過多の状況が継続してきたが、最近になり需要と供給のバランスが取れてきたため、過当競争になる事は避けられそうである。」「コロナ禍で今後の経済状況がよくなるとは考えられず、これからの変化にどう対応していけば良いか対策を検討している。」「新型コロナの影響で案件が減少し、過当競争となり受注が縮小している。今後の見通しについても引続き受注状況は厳しく採算悪化が予想される。」との回答。

『土木関連』…「価格競争が厳しい状況。3K 仕事であるが故、人手不足が続き人材確保に苦戦している。コロナの影響により、一般住宅の建替が減少し、それに伴い解体も減少傾向にあるが、ここに来て富士地域内の造成地が売れ出してきているので期待を寄せている。」との意見。

『造園土木』…「暮れの剪定業務が終了し、高木の伐採が中心となっている。公共の仕事はなく、来年度も工事の発注件数は少ない模様。富士市においては大淵の新環境クリーンセンターが完成し大型の公共工事はなくなったが、その他の工事関係はこれまで通りに推移しそうである。」「民間企業においては、新型コロナの影響で仕事の減少が目立つ。コロ

ナ終息の目途が立たない状況下で、ワクチン接種も遅れ景気の回復も望めない。」とのコメント。

『設備工事』…「人員不足による競争力の低下で、売上確保が厳しい。」「コロナ禍で、投資や開発の案件が少なく受注が減少傾向にある。地域経済が停滞している中、今後の見通しはワクチン接種次第と推察する。」「新型コロナの影響で受注に減少が見られる。その要因として、受注先の事業見直しによる設備投資引き締めが原因に上げられる。ワクチンの普及による経済的な雰囲気の改善に期待している。」「市場は競争もなく元請も節度をもって見積りを出すので静かな状況。今後についてもあまり変化はなく、単価を乱す業者は減ってきているので競争もないと思う。」「官公庁からの発注減や工場等の設備投資見送りも見られ、電気設備工事の減少が予想される。電気設備工事業界の人員不足は慢性化し、人材の高齢化も進んでいる。」との意見。

『屋外広告・イベント』…「コロナの影響で富士市のイベント関係はほとんど中止だが、緊急事態宣言が解除されれば多少復活するのではないか。今後、コロナに対応したイベント企画の提案ができなければ仕事は確保できないだろう。看板部門については、各方面から仕事を受け順調であるが、同業他社は、縮小や業態変更せざるを得なく仕事量は順調でも採算は厳しいようだ。」との意見。

『その他』…「地域活性化を動かす起爆剤が市政の中にも民間にもなく、全体的にコロナの影響により、精神的に疲れている様にうかがえる。」「ワクチン接種会場に関する設営依頼はあるが、ワクチン自体の到着がいつになるか分からず開始の予測が見えない。」「富士見台団地終末処理場跡地の分譲工事も終わり、住宅会社の建売住宅の建設が始まっている。」との情報。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	0.0	69.0	31.0	▲31.0	下降
売上高	3.3	46.7	50.0	▲46.7	上昇
採算	6.7	73.3	20.0	▲13.3	下降

【卸売業】 景気ムード…【厳しい状況】

『機械器具』…「毎年3月は各社予算消化の為、売上は大幅に増加するが、今年はその傾向がなく苦戦している。4月移行、予算取りの引き合いは増加傾向にあり期待したい。」とのコメント。

『自動車部品』…「コロナ禍であるが、新車の販売が好調で下取り中古車の市場も活発となり、整備需要も増えて交換部品需要も5%ほど前年実績を上回った。しかし大手車検業者の進出もあり、納入同業者の数も増え、価格競争が激しく利益はそれほどではない。」「自動車業界が100年に一度の大変革期と言われ、今後の見通しが読めない。」とのコメント。

『金属部品』…「景気の動向に連動するため、設備投資が改善しなければ業界の低迷は続く。本年後半には回復の兆しがあると予想している。」との回答。

『建築材料』…「現在、遠方からの見積もり依頼もあり件数は多いが、なかなか受注までに至らなく、今後の先行きについても不透明である。コロナウイルス感染が収束に向かい、ワクチン接種がスムーズに進めば不安が解消され、企業の設備投資も進み景気も回復すると思われる。」とのコメント。

『紙』…「洋紙に比べ板紙の動きはまだ良い方だと言われている。しかし、緊急事態宣言がいつまで続くかによって、土産物関係や食品関連の出荷に大きく関わるので注視してい

くしかない。」「緊急事態宣言の発令により需要低迷が続いている。この先の解除により、人の移動が増加してくれば紙の需要低迷も改善されると思われる。」との回答。

『製紙原料』…「新種のウイルスが発生し感染が拡大する現象は、これから先も起こるであろうと言われ、企業としても対策を考えリスクを軽減した事業展開を取らなければならない。」「産業古紙の減少や紙メーカーの生産調整などで古紙の流通が滞り、また、輸出についても外国の動きに左右され思うように動いていない。今年の暮れぐらいまでは見通しが見つからないとメーカー側も言っていた。」とのコメント。

『再生資源』…「金属スクラップ（鉄・銅）の価格が上昇。輸入規制を緩和した中国の需要増で品薄感が強まった。」「国内外からの鉄製品需要がようやく上昇し、特に中国経済の活発な動きから増加傾向にあるため、原材料の鉄鉱石・鉄スクラップ・非鉄金属の価格上昇が見られる。銅スクラップはトンあたり50～60万円が、ここに来て100万円まで上がり当面は強含みの状態が続くと見られる。」「環境・資源制約の下で社会的役割を果たすため、収集運搬、処分の低炭素化・素材処理に関する技術体制の確立、循環資源の再資源化率の向上が求められている。コロナ感染が未だ終息しない中、適正な処分による循環型社会の構築を進めるには、地域社会と連携しつつ、生活環境の保全・公共衛生の向上を図り、地域経済の発展に貢献していくことが重要と考える。」との意見。

『工業薬品』…「緊急事態宣言の影響で販売需要は減少しており、解除後に期待している。今後も含め、経済の流れにより生産から販売まで大きく影響されることになると思う。やはりコロナの影響は良きにつけ悪きにつけ事業活動にかなりあると思う。故に見通しはつかないというのが現状。」との回答。

『食品』…「需要減少による在庫過剰が続くと思われる。」とのコメント。

『その他』…「愛知県は完全回復、関西は良化、関東・東北は回復が鈍化。県内では、浜松地区はだいぶ忙しくなっているよう。」「一般市民に給付金を出して、消費を多くして地域を活性化して欲しい。」「民事再生開始手続きに入った地元企業の今後の動向について注目している。」「地域活動は、イベントなどを安全災害軽減に絞ることで地域費用の抑制につながり、財政の無駄を軽減することで地域の活性化を促すことは、住民の生きる力をつけることを確信する。」との回答。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	8.7	30.4	60.9	▲52.2	上昇
売上高	16.7	29.2	54.2	▲37.5	上昇
採算	12.5	41.7	45.8	▲33.3	上昇

【小売業】 景気ムード…【厳しい状況】

『各種食料品』…「手土産や進物のニーズは大きく落ち込み、おやつ等の自家消費はプラス傾向にある。」「和洋菓子専門店で言えば、年末年始、3月商戦、GW、8月盆商戦など大口商戦での落ち込みは計り知れない。しかし、今回の経験から学んだことを活かし、ECサイトの販売強化やギフト関係の発信強化など、新たな取り組みを行っている。」「家族経営の店は人材不足もあって忙しいようだ。卸売、掛売(委託販売)等に頼っている店は厳しいと思う。」「テイクアウトは好調であるが、大型店での店頭販売は苦戦し、コロナ感染の状況が業況を左右する。人件費の上昇により、利益を圧迫。」との回答。

『食料・飲料』…「お茶業界全般においてドリンク需要は停滞し、今年の新茶需要も旺盛ではないと推測される。当園は、リーフ茶専門の販売店であるが、毎年減少傾向である。今後も茶園の減少が続くと思われる。」とのコメント。

『衣料品・呉服』…「3月に入り来店客が激減しているのので、当分休業することを検討している。」「製造メーカーは開店休業状態。個店においては、夏祭りや花火大会等が中止されると影響は大きい。」との回答。

『生花』…「コロナ禍において、結婚式や葬式が簡素化・廃止され商機が減少している。個人消費も低迷し、誕生日やパーティー、送別会などの需要も少ない。終息後の経済回復にも不安を感じる。」との意見。

『医薬品』…「コロナが落ち着いたとしても、平常時と同等の需要には戻りにくいと予想している。」とのコメント。

『日用品・雑貨』…「家庭用品業界においては、ステイホームの影響で一部の商品が売り切れ状態。たこ焼き器・ホットサンド・ホットプレート・ホームベーカリーや、その他男性向きの調理道具等も売れている。」「年度末需要が一段落した後どうなるか注意したい。」
「店舗売りは不調、通販は好調といった傾向がより顕著になってきている。商店街に足を運んでくださったいた高齢者もコロナ禍で皆無となった。」「自粛生活の影響もあり、来店客数が減少し客単価も以前に比べやや低い。ワクチン接種の動向により今後の経済状況が左右されると思われる。」との回答。

『化粧品』…「少子高齢化やインバウンド需要の不透明さ、アフターコロナにおける化粧品に対する価値観の変化など、今後の動向については判断がつかない。都市部では、大きなダメージがあり、未だに前年比マイナスの売上げで推移しているところが多いと聞く。」との回答。

『家電』…「スマホと連携する家電製品が好調で、家にいなくても外出先から操作できる洗濯機等、最新式の白物家電が売れている。富士市ではコロナ感染が落ち着いているが、まだまだ影響があり、経済活動が低迷し事業継続が困難な事業所もある。」とのコメント。

『自動車』…「登録車と軽自動車を合わせた2月の新車販売台数が、前年同月と比べて0.5%の微増に留まった。消費税引き上げ以降5%以上の伸びを推移していたが、ここにきて回復ペースが失速した。政府による緊急事態宣言により営業活動が例年より滞っていることが響いている。今後、商談イベントが開催できない状況や半導体の生産不足など、どのように影響が出てくるか読めない。」との回答。

『その他』…「3月のある日曜日好天に恵まれたせいか商店街に朝から人出が多く、活気づいていた。」「吉原商店街2月の「一の市」は中止だったが、3月は開催され、人手はそれなりにあった。商店街独自でプレミアム商品券を2月1日に223(ふじさん)枚販売したが、2日間で完売。2月3日に追加で100枚も即日売り切れ大好評だった。」「地区のお祭り等の行事が中止となり、住民が話し合う場が持てない。」「富士駅周辺は地区クラスターの発表により、風評により客足が戻らない傾向にある。」との情報。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	0.0	45.5	54.5	▲54.5	上 昇
売上高	9.1	31.8	59.1	▲50.0	上 昇
採 算	4.5	31.8	63.6	▲59.1	上 昇

〔サービス業〕 景気ムード…【厳しい状況】

『飲食』…「飲食店はコロナの収束次第で大きく変わると思う。当店も、旅行客・ビジネス客など新幹線利用者が増えれば自然とお客さんも増えると期待している。」との回答。

『清掃具レンタル』…「生活様式の変化により、単なる清掃から衛生管理業務に移行しており、今後、付加したサービスがどれだけ市場に認められ、売上減少の歯止めになるか期

待したい。」「清掃用具に抗菌、抗ウイルス機能を持たせたり、室内清掃に抗菌、抗ウイルス処理の付加サービスが増えてきている。」とのコメント。

『運輸・倉庫』…「コロナの影響により、紙の需要が低迷で業界動向も非常に悪い。ワクチン接種も始まり、オリンピックや選挙が終われば景気は、秋ごろには回復してくると予想する。」との回答。

『自動車整備』…「親会社の売上減少に伴い当社への入庫台数が減り、下期売上目標が達成できない。」との意見。

『不動産』…「市内における年末年始の時短要請などコロナの影響を受け、飲食全体の売上は回復傾向にない。ワクチン接種が進むまでは、平常時の売上に近い数字は難しい。」「コロナ禍で宅地造成分譲地の販売が不振。一般消費者に不安要素が高く、需要が低迷していると思われる。」「宅地造成でコロナ以前に仕入計画していた分譲地も、販売見込みに不安がありながらも工事は着々と進んでいるようだ。コロナの終息も意識してか、分譲地(宅地)はあまり悲観的な声は聞こえず、景気回復への期待があるのかもしれない。」「コロナ禍でテレワークが増え、一部屋余分に必要になった人たちが、広めのアパートやマンション、戸建て住宅を求めているようで、新たに不動産の需要が増えているという話がある。」「公示(地価) 価格が発表されたが、軒並み下落している。相続等が進み、土地を手放す人が増え、分譲地が増え続けている。今後も地価が下がり続ける気がする。」とのコメント。

『専門サービス』…「取り引きの低迷、消費の減少に伴う企業収益の下降は年内から来年春頃まで継続し、来年の夏以降にようやく景気が拡大傾向に転じると思われる。」「コロナ禍において業種や規模により様々な症状が出ている。採算が合わず廃業に追い込まれたり、コロナ融資で延命を保っている業種もあれば、全く変化がなく反対に需要が増大し売上・利益とも上昇している業種もある。いずれにせよこのコロナを契機に構造的にも今までの業態では厳しくなると予測される。」と税理士からの意見。

『旅館・ホテル』…「1・2月に比べ、3月の売上は微増すると思われるが、今後はコロナ次第なので何とも言えない。」「旅館業は回復の目途が立たず、コロナ対策を凶ると、部屋に対する収容人数が減る為、売上が見込みがない。今後は、業種を変えていく必要がある。」とのコメント。

『バス』…「旅行業界及びバス業界は、新型コロナの影響で最悪な状況。ウイルスの終息を切に願い、平常時に早く戻ることを期待する。」との回答。

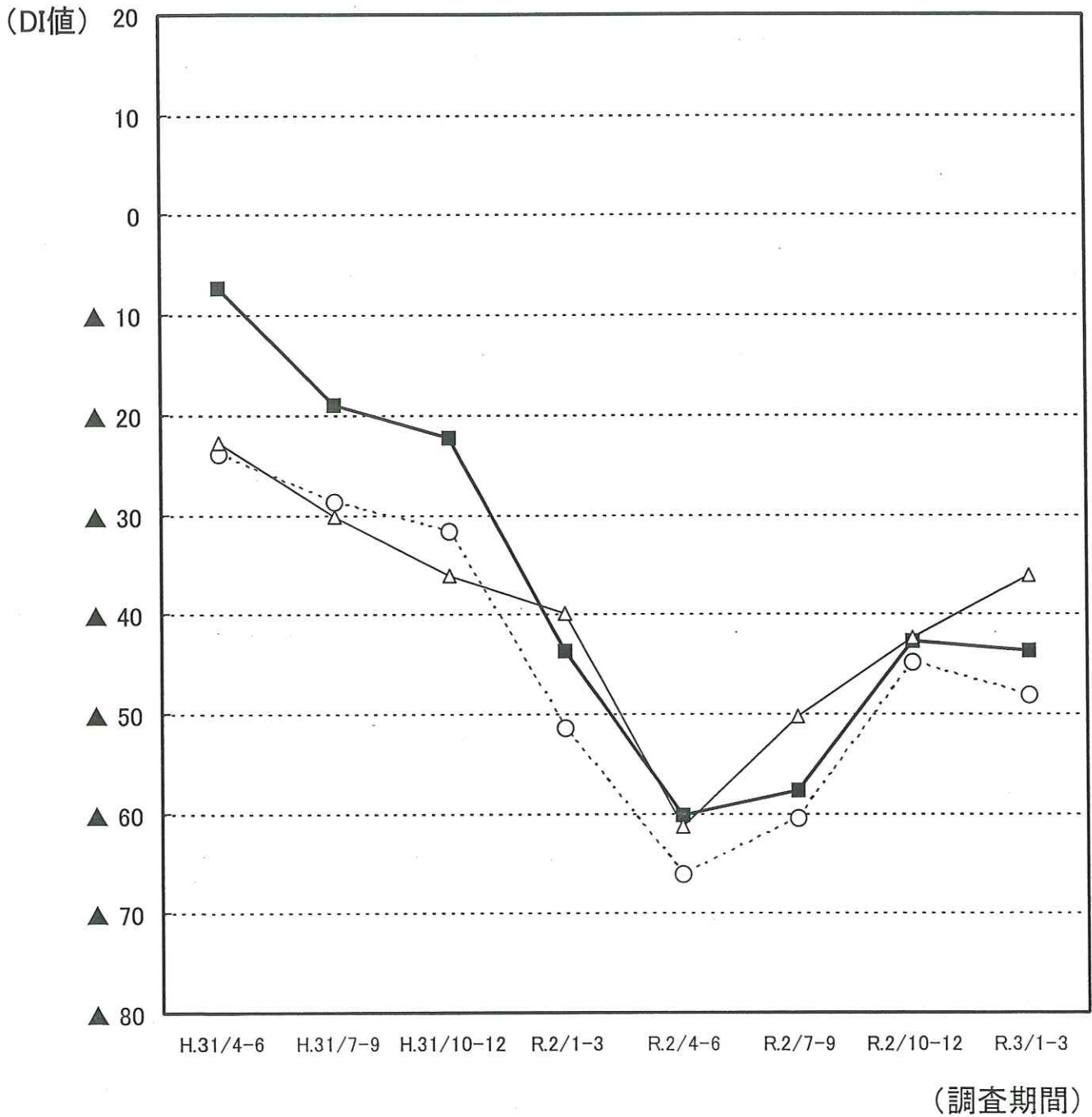
『旅行業』…「コロナが収まったとしても、今までと同じ状態にはならず、旅行の形態も変わってくると思う。」との回答。

『その他』…「富士岡沼津線沿いのパチンコ店の跡地に建設されたコンビニ及びドラッグストアが3月中にはオープン予定である。」「巣籠生活により地域でのコミュニケーションの場が減少することで、地域活力に勢いが感じられない。昨年1年間の地域行事(夏・秋まつり等)がほぼ全て中止で、今年も秋前のイベントはほぼ中止の見込みの話も聞こえてくる。長引くと、市民の消費への影響、所得の減少などで、地域経済への影響が心配になる。」「新々富士川橋が令和5年度に開通することになり、橋の形が大分見えてきた。岩本にはスーパーなど、便利な店がないので、開通に伴ってそうした施設が進出してくれることを強く望んでいる。」とのコメント。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	3.8	34.6	61.5	▲57.7	上昇
売上高	24.0	24.0	52.0	▲28.0	上昇
採算	12.0	36.0	52.0	▲40.0	上昇

全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

■ 売上 ○ 業況 △ 採算

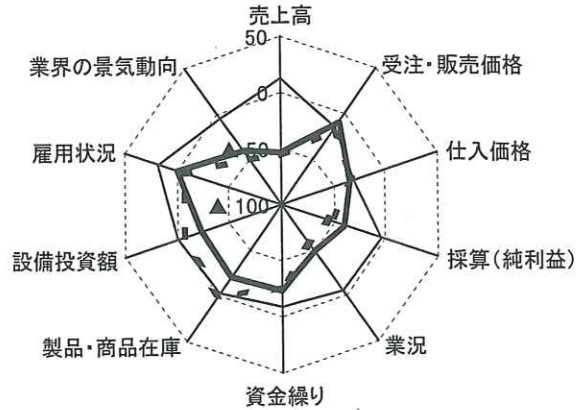


レーダーチャート

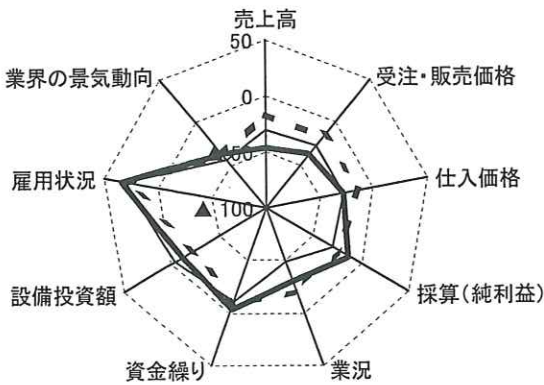
売上高	増加・減少
受注・販売	上昇・下降
仕入価格	下降・上昇
採算	好転・悪化
業況	好転・悪化
資金繰り	好転・悪化
製品・商品在庫	減少・増加
設備投資額	増加・減少
雇用状況	不足・過剰
業界の景気動向	好転・悪化

前年同期比	———
来期予測	———
前回調査時	- - - - -

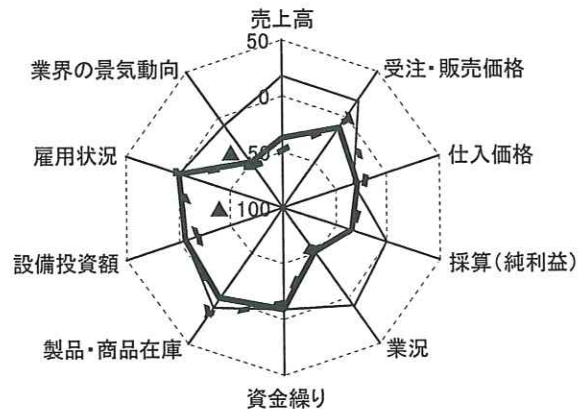
【製造業】



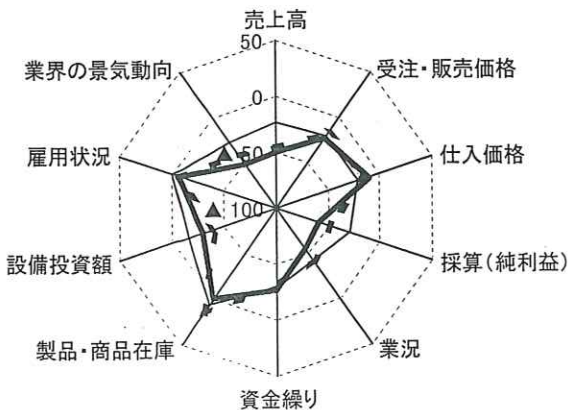
【建設業】



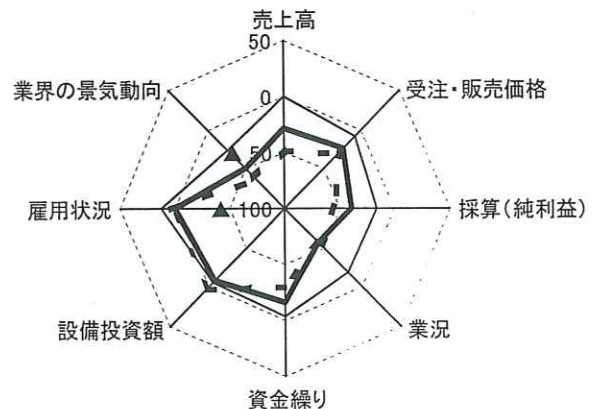
【卸売業】



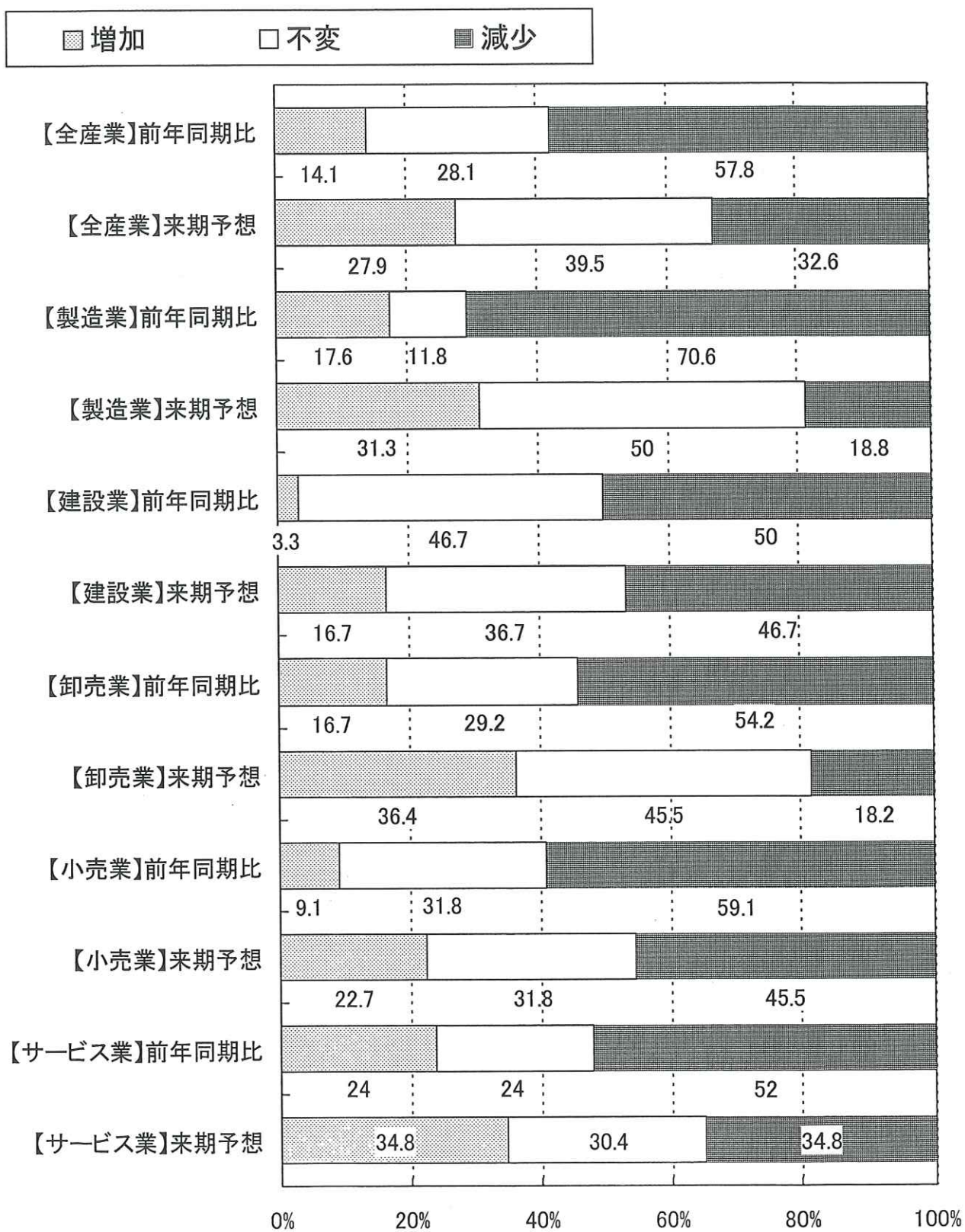
【小売業】



【サービス業】



売上高の前年同期比と来期予測



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	1 位 売上減に伴う利益減 2 位 設備老朽化 3 位 その他の需要の低迷 その他 人材不足
建設業	1 位 売上減に伴う利益減／人材不足 2 位 過当競争／設備老朽化 3 位 その他の需要の低迷 その他 人件費高騰／売上、利益減による資金圧迫
卸売業	1 位 売上減に伴う利益減 2 位 その他の需要の低迷 3 位 販売価格値上げ難 その他 過当競争／売上、利益減による資金圧迫
小売業	1 位 売上減に伴う利益減 2 位 その他の需要の低迷 3 位 売上、利益減による資金圧迫 その他 設備老朽化
サービス業	1 位 売上減に伴う利益減 2 位 売上、利益減による資金圧迫 3 位 その他の需要の低迷 その他 設備老朽化

最近の静岡県金融経済の動向

公表日（2021年3月24日）

日本銀行静岡支店
照会先 TEL 054-273-4106

（概況）（管内金融経済概況早見表） 県内の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、経済活動が徐々に再開するもとの、持ち直している。最終需要の動向をみると、輸出は増加している。個人消費は一部に厳しさがみられるが、全体としては持ち直している。住宅投資は幾分持ち直している。公共投資は高水準で推移している。設備投資は下げ止まりつつある。こうした下で、企業の生産は、業種・品目毎に区々の動きとなっているが、全体としては増加している。雇用・所得環境をみると、労働需給は悪化に歯止めが掛かりつつあるが、全体としては引き続き厳しい状態にある。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を下回っている。

1. 需要項目別の動向

※前回からの変化 改善 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

（1）個人消費（前回からの変化） → 持ち直している。この間、外食など各種サービス消費でも持ち直している。

百貨店・スーパー売上高は、持ち直している。乗用車新車登録台数・販売台数は、持ち直している。コンビニエンスストア売上高は、弱めの動きとなっている。家電販売額は増加している。ドラッグストア売上高は、大幅に増加している。旅館・ホテルの宿泊数は、減少している。

（2）公共投資（前回からの変化） → 高水準で推移している。
（公共工事請負金額前年比：21/1月 ▲33.9% ⇒ 2月 ▲45.9%）

（3）設備投資（前回からの変化） → 下げ止まりつつある。
（短観・設備投資額：19年度計画 +1.4% ⇒ 20年度計画 ▲0.4%）

（4）住宅投資（前回からの変化） → 幾分持ち直している。
（新設住宅着工戸数前年比：20/12月 ▲5.4% ⇒ 21/1月 ▲7.1%）

（5）輸出（前回からの変化） ↗ 増加している。
（輸出額前年比：21/1月 +8.9% ⇒ 2月 +9.2% <速報値>）
清水港、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4港合計

2. 生産、雇用・所得、物価の動向

- (1) 生産(前回からの変化) → 業種・品目毎に区々の動きとなっているが、全体としては増加している。
(鉱工業生産指数・生産<季節調整済>前月比: 20/11月▲1.7%
⇒12月+1.0%<速報値>)

自動車・同部品は、増加している。二輪車・同部品も増加している。食料品は、弱めの動きとなっているほか、電気機械は、増加している。化学は、弱めの動きとなっている。はん用・生産用・業務用機械は、持ち直している。紙・パルプは、減少しており、楽器は、持ち直している。

- (2) 雇用・所得(前回からの変化) → 労働需給: 悪化に歯止めが掛かりつつある。(→)
雇用者所得: 悪化している。(→)
(有効求人倍率 季節調整値: 20/9月0.90倍⇒10月0.93倍)

- (3) 物 価 前年を下回っている。
(消費者物価指数(除く生鮮食品): 前年比21/1月▲1.0%⇒2月▲0.9%)

3. 企業倒産、金融面の動向

- (1) 企業倒産 このところ大口倒産が発生しているものの、総じて落ち着いている。
(21/2月、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(13件<前年比: +18.1%>)
負債総額(31億円<同: +117.4%>)
- (2) 預 金 前年を上回っている。(前年比: 20/12月末+8.6%⇒21/1月末+9.5%)
- (3) 貸 出 前年を上回っている。(前年比: 20/12月末+7.2%⇒21/1月末+6.5%)
- (4) 貸出約定平均金利 前月比低下している。(地元地銀・第二地銀4行ベース、総合・ストックベース)
(水準: 20/12月1.435%⇒21/1月1.434%)

以 上